

ハイデルベルク信仰問答より

問 26 「天地の造り主、全能の父なる神を信ず」と告白するとき、あなたは何を信じているのですか。

答え 天と地にあるすべてのものを無より創造し（詩篇 90:1-2、イザヤ 44:24）、その永遠のご計画と摂理によって、それらのものを支え、治められる（マタイ 10:29）私たちの主なるイエス・キリストの永遠の父が、御子キリストのゆえに、私たちの神であり、父である（ローマ 8:15-16）と信じているのであります。// 私は、この方をかたく信頼していますから、身と魂のために必要な一切のものを、私に備えてくださることを、決して疑いません（ルカ 12:22）。さらに、この悩み多い世において、私に与えられる禍が何であれ、私の益としてくださる（ローマ 8:28）ことを、決して疑いません。なぜなら、神は全能の神でありますから、それをなさることができ、また、真実なる父でありますから（マタイ 7:9-11）、それをなさろうと決意しておられるのであります。

使徒信条の冒頭の告白、「我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず」を掘り下げる問いです。この問いを読んではじめて、実は告白者は神を二通りの呼び方で呼んでいるということに気づかされるでしょう。

#### ①天地の造り主

#### ②全能の父なる神

まず「天地の造り主」について、どのように説明されているかを見てまいります。整理すると更に二つの要素が浮かび上がってきます。

#### (1) 天と地にあるすべてのものを無より創造したお方

《参考聖句》

- ・ 主よ。あなたは代々にわたって私たちの住まいです。山々が生まれる前から、あなたが地と世界とを生み出す前から、まことに、とこしえからとこしえまであなたは神です。（詩篇90:1-2）
- ・ あなたを贖い、あなたを母の胎内にいる時から形造った方、主はこう仰せられる。「わたしは万物を造った主だ。わたしはひとりて天を張り延ばし、ただ、わたしだけで、地を押し広げた。」

（イザヤ44:24）

#### (2) その永遠のご計画と摂理によって、それらのものを支え、治めておられるお方

《参考聖句》

- ・ 二羽の雀は一アサリオンで売っているでしょう。しかし、そんな雀の一羽でも、あなたがたの父のお許しなしには地に落ちることはありません。（マタイ10:29）

まず、上記の二つの要素は「創造」と「摂理」という言葉で言い表すことができます。私たちが信じる神とは、無から有を創造された方である。果てしない宇宙を創造し、私たちが生きる地球というまことに小さな惑星の微生物までも、神の創造の御業である。そして、創造を終えたらあとはなるがままに任せているのではなく、緻密なご計画の下に一切のものを導き続けておられる。人間が心も留めないような小さき一羽のスズメさえ、神のお許しなしには命を失うことはない。このように、大宇宙から小生命までを愛し治めておられる神の姿がまず描き出されます。

ここまでだけでも、神の支配が私たち人間にまでも及んでいることが読み取れるでしょう。ところがこの信仰問答は、この偉大なる神を「父」と呼ぶところへと進んでいくのです。次に見ていくのは「全能の父なる神」という呼び名です。

### (1) 私たちの主なるイエス・キリストの永遠の父

ここでは、告白者がキリストの救いにあずかっているということが前提として話が進んでいきます。先に呈示された「創造と摂理の神」は、今や「イエス・キリストの父」として説明されます。既に学んだように、一人の神の内に三つの人格（位格）が存在し、父と子は聖霊によって完全な愛の関係を結んでいる。主イエスは父なる神を心から慕い、「アバ、父」と呼ぶ。「アバ、父」とは、アラム語で「パパ」を意味する言葉であり、赤ちゃんが言葉になるかならないかの頃に「アッパ、アッパ」と言い始めるところからきていると言われます。余談になりますが、我が家の長男はしゃべり始めた頃、私を指差して「と」、妻を指差して「か」と呼んでいました。

### (2) 御子キリストのゆえに、私たちの神であり、父であると信じている

ここに出てくる「御子キリストのゆえに」という表現こそ、告白者が「創造と摂理の神」を「父」と呼びうる要／根拠／架け橋です。私たちは当たり前前に神を「父」と呼びうる存在なのではありません。いつしか当然のように「天の父なる神様」と祈り始めるようになった私たちですが、そもそも神と私たち人間の関係は罪によって断絶されていたのです。聖なる神に近づくことのできない汚れた存在でありました。しかし、主イエスは御父の許より降り、人となり、私たちの側に立ち、大祭司として、また自らを犠牲の羊として、おささげくださいました。この完全なる犠牲によって、私たちの罪に対して向けられていた神の怒りは宥められたのです。人間は生まれながらにして自己を神とし、神の法に逆らい、神の創造の秩序を曲げています。そのような私たちが神と和解するために、主イエスはいのちを捨ててくださいました。更に、主イエスは私たちの長兄となって、同じ神を「父」と呼ぶことのできる存在となしてくださいました。そのゆえにこそ、私たちは主イエスと同じように神を「アバ、父」と呼べるようになったのです。

**あなたがたは、人を再び恐怖に陥れるような、奴隷の霊を受けたのではなく、子としてくださる御霊を受けたのです。私たちは御霊によって、「アバ、父」と呼びます。私たちが神の子どもであることは、御霊ご自身が、私たちの霊とともに、あかししてくださいます。（ローマ8:15-16）**

このように、最初の告白では「創造と摂理の神」と「罪人」の架け橋となってくださった「御子イエス・キリスト」のとりなしが中心に置かれているのです。